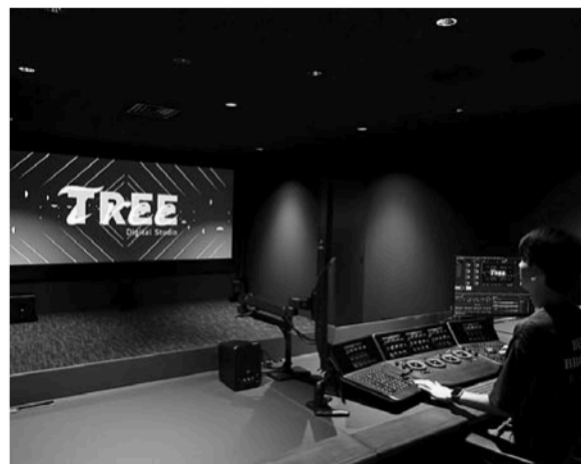


TREE Digital Studioが長尺制作を強化 カラーグレーディング室を新設 同社初、スクリーンベースで構築

TREE Digital Studio (本社 東京都渋谷区) は、4K対応のスクリーンカラーグレーディングルーム「SCR-331」を新設し、運用を始めた。スクリーン常設のグレーディングルームは同社DIGITAL GARDEN事業部として初。スクリーン上映する劇場映画やハイエンドな配信作品の制作環境を拡充した。

同社は現在、劇場や配の映画、ドラマなど長尺信プラットフォーム向け 作品のカラーグレーディ



SCR-331

ンク、VFX作成を多く手掛けており、『8番出口』『爆弾』をはじめとしたヒット作も担当している。

今回、スクリーン向けの制作環境を強化するためSCR-331を開設した。同社カラリストの平林裕大氏は「映画の作業が増えてきたことに伴い、自社内でスクリーンベースのカラーグレーディングを完結できる体制を整備した」と説明する。VFXを担当するLUDENS事業部と同じフロアに設置したことで、ス

クリーンでの見え方の検証も円滑に進められる。プロジェクトは、実際の映画館で使用されるバルコ製ネイティブ4Kレーザー光源モデル「SP4K-1 2C」を採用した。高いコントラスト比と優れた均一性を備えた豊かな黒の表現や微細な階調の確認ができるのが特徴。制作スタジオではキセノンランプモデルが一般的だが、新規参入にあたり、映画館での

の機種を選択したという。スクリーンはスチューブ製(SCOPE-3 640×1523mm)は、FLAT-2818×1523mm)を選択した。

Mなどの制作にも対応する。カラーグレーディング卓は昇降式としており、カラリストの体格に合わせ設定可能。

TREE Digital Studioは、インメントメディアサーピスから、システム設計や運用についてアドバイスを求めている。



平林氏とアシスタントの田口氏

ディンクシステムは、ブラックマジックデザイン「ダビンチリゾルフ」を使う。なお、今年1月にはカラーグレーディングシステムとして「ベイスライトM」も導入しており、今後は併用も視野に入れている。

システム設計・施工はテクノハウスの「人間の知覚」が生きる部分を的確にとらえることで、作品のクオリティを向上させたい」と話している。